

佐竹びじょん



読書、ぜいたくのすすめ

街の本屋さんが少なくなっており、最近の調査では、平成29年には12,526店と平成12年から4割以上も減り、さらには全国の市町村・行政区の2割以上に及ぶ420市町村・行政区には書店がないということです。

本県では25市町村中、9町村には書店がありません。

大型ブックチェーン店の進出もあるようですが、何とんでも国民の活字離れが主要因で、文芸誌や専門書などの本格書籍に加え、世間の目を引く話題中心の週刊誌や子ども向けなどの雑誌類も大きく落ち込んでいるようです。



思えば私の子ども時代には、子ども向け月刊誌や芸能誌、また多くの漫画週刊誌が出版され、街の本屋さんで時間を忘れ立ち読みし叱られたり、親に通年購読をねだり、毎月の発売日には胸を躍らせた記憶があります。

テレビ、インターネット、電子書籍など多くの情報媒体に囲まれ、短時間で情報を仕入れる習慣が身に付き、じっくり活字を読むのがおっくうになっている時代ですが、たまには一人静かに本を手に取り、活字を通して、あらすじや登場人物にさまざまに想像を巡らしながら、ページをめくるのもいいものです。

気ぜわしい世間、読書はお金をかけないぜいたくでもあります。